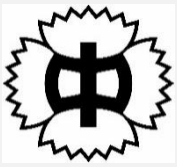


大宮小&済美小&大宮中 夢のタスキを9年間つなぎます!



# なでしこ

東京都杉並区立大宮中学校 学校だより

令和2年5月1日 第5号(19-29)

発行責任者: 校長 関田 誠

『なでしこの 色鮮やかに 明るく強く 優しい心で 毎日挑戦』

## 5/1(金)HP掲載 『教え子から届いた手紙』の話

～夢を実現させるのに頭が痛くなるまで考える～

大宮中の皆さん、こんにちは! 第2次コロナ休校も5月に入りました。例年ならば、GW期間で、部活動や習い事の大会もスケジュールされて…という日々のはずでした。新3年生には、掛ける言葉が思いつきません。そんな3年生を、何とか励ましたいと思いました。ふと、春休みの終わりに、私の前任校での卒業生(女子)S.Aさんから嬉しい手紙が届いたのを思い出しました。大宮中生の夢や目標作りにも、大いに刺激を与える内容だと思しますので、あえて掲載しますね。😊

関田校長先生、お久しぶりです。お元気ですか。板橋区立加賀中学校卒業生のS.Aです。中学生の頃、関田校長先生が、私の書いた『挑戦』など、書道作品を評価(※注1)してくださった喜びは、それがきっかけで自信に変わり、現在でも書道を続けています。私は現在、高校三年生で、先日、進学先が決まりました。公募推薦で、首都大学東京(都立大学)システムデザイン学部、インダストリアルアート学科に合格することが出来ました。高校入試の際にも推薦入試で、校長先生には大変お世話になり(※注2)、自分でも忘れることのできない体験となりました。『夢手帳』(※注3)に励ましのメッセージを書いてくださったり、本当に感謝しています。ですから、関田校長先生に大学合格の報告をさせていただきたいと思い、お手紙を書きました。

高校入試の時、都立新宿高校に入れなかった悔しさは大きいものでした(※注4)が、私は私立駒込高校で素敵な友達や先生にも出会い、楽しい高校生活を送ることが出来ました。関田校長先生にも評価していただいた『書道』というものは、高校3年間でも自分の武器・強みとして持ち続け、力を発揮することが出来ました。私は、この今まで磨いてきた『書道』を、書道家としてでなく、『クリエイター』として輝かせたいと考えるようになりました。私の進学先であるインダストリアルアート学科は、「デザイン・アート」という広い領域をあらゆる方向・分野から研究・発展させていく学科です。公募推薦を受けるにあたり、『書道』で自分は何が出来るのか、『書道』である必然性とは何か、どうやって自分には『書道』で新しい道が開けるのか、など頭が痛くなるまで考え続けました。

その結果、私は書道がもつ人の心を動かすことのできる力と、人々の五感に迫るようなインタラクティブアートを組み合わせたいクリエイターになりたいと思いました。インタラクティブアートとは、触覚・聴覚などの五感を働かせ、温度差や振動などそのような変化を与えて、観客を参加させる芸術の一形態です。私は書道とは空間アートであると思っています。又、書道という分野を『教養』の枠から『アート』へと引きずり出し、触覚などのインタラクティブアートと融合することで、目の不自由な方、色覚障害の方など、『文字』である書道とは疎遠であった方とも、『アート』として共存したいと思っています。自分の中で、書道の存在がここまで大きいのは、中学生時代に、自分の作品に対して、心を動かされたと言ってくくださった方や、校長先生のように、自分の頑張ってきた書道を認めてくださり、沢山、褒めてくださった方のおかげです。本当にありがとうございます。これからも私らしく進んでいきたいと思っています。常に挑戦する人生を歩みます。また、お会いできる日を楽しみにしています。最後まで読んでいただき、ありがとうございます。先生、お身体大切になさってください。 S.A

注1: 当時、何故かこの書に胸を打たれました。注2: 個人面接練習や集団討論練習の面倒を見ただけです。注3: 大宮中のDOノートと同じものです。注4: 彼女は第一志望の都立推薦・一般入試に失敗して大泣きました。



※S.Aさんは、当時夢手帳(DOノート)に熱心に取り組んだ人でした。バスケットと勉強、そして書道に打ち込んでいました。今こそ、自分の好きなことに没頭(挑戦!)する時間を大切に!

大宮中生ならこんな時こそ挑戦でしょ！ DOノートや壁に貼ってくれと嬉しい。

挑戦

大宮中精神：<sup>アキラカシ</sup>優しさをもって、夢に向かって挑戦する若者であれ